



復刊 93号

アオイガイ (通称・蛸貝)

熱帯から温帯の温かい海に漂う浮遊性の蛸で、当地では蛸貝と呼ぶ。アオイガイの名は半円形の白い貝殻が葵の葉に似ていることからついた。冬の荒れた日本海が穏やかになった朝、土地の人は「浜めぐり」と称して、海藻や大イカなどの漂着物を楽しみに浜辺を歩く。カラの貝殻はあっても、蛸の入ったものは珍しい。

南の海から太平洋側の黒潮に乗ると外洋に流れてしまいが、日本海側の対馬暖流に乗ると北上して、季節風で衰弱し吹き寄せられるのだという。当地角田浜は県内でも比較的温暖で、雪も少ない。海岸近くを対馬暖流が流れ、海水温度が高いのだ。温かい海からの蛸貝の漂着はその証拠でもある。

744年前の初冬、当地に漂着された日蓮聖人のご縁で、妙光寺は後に創建された。それもこの海流があったことになる。

妙の光



行事案内



合同法事

今年年回忌(法事)が当たっていたけれど都合でできなかったという方のために、合同の年回忌法要を営みます。檀信徒・安穩会員どなたでも。



■12月27日⑧ 午前10:00 受付
10:30法要

11:30銘々で墓参り

- 費用 ●塔婆1霊位2千円 ●お供物共通経費2千円 ●お布施
- 持物 ●位牌 ●墓参用の花、ロウソク、線香 ●平服でどうぞ

■申込 12月25日までに電話でもかまいませんが、なるべくFAXやハガキ、メール等で。

がっきおさ ふだくば

月忌納め(お札配り)

12月中に地元の檀徒宅へ、来年のお札を持ってお経に伺います。県外等でお札を希望される方にはお送りします。

除夜の鐘・お焚き上げ

除夜の鐘は31日午後10時30分から、大玄関受付で整理券を配布し、本堂で除夜法要があります。鐘はどなたでも一人ずつ、必ず撞いていただけます。温かい甘酒、コンニャクの用意もあり、若い人たちが賑わいます。



11時半ころから古いお札、しめ縄等の`お焚き上げ`があります。当日お持ちになれない方は、事前に祖師堂の受付箱にお入れください。



『ナガサキ写真展』には、のべ1500人が来寺されました。初めて来られた方がほとんどで、「立派なお寺ですね」と褒めていただきました。オリジナルプリントの写真は、静謐な迫力がありました。「焼き場の少年」を手元に置きたい方が多く、チラシを複数枚持ち帰る方が大勢いました。今号のインタビューでも語られているように、お寺にはいつも「死者への思い」があります。静かな写真展会場には、70年前の戦争の死者たちへの思いが満ちていました。この思いが明日の平和をつくる力になりますように。(新倉理恵子)

ほしまつ きがんだ

『星祭り』祈願札

個人ごとにその年の星回りがあって、元旦の朝に本堂で希望者の『星祭り』を行い1年の安泰を祈願します。家族ごとに1枚のお札にして1軒2千円でお届けします。

新規お申し込みの方は、家族全員の氏名、男女別、生年月日を書いて12月20日までにお知らせ下さい。継続の方は申込不要です。



年始参り

1月1日と2日の午前9時〜午後4時。最近はお夫婦や家族そろってという方が増えています。お気軽にお



出かけください。玄関で受付されたあと、住職が大広間でお待ちしています。気軽なお茶席のご用意もあります。

佐藤上人の水行と厄除け祈願祭

2月20日⑤、2月21日⑥のいずれも午前10時から。例年の厄除け祈願祭に合わせ、今年は寒百日の大荒行を終えた佐藤上人の水行を行います。厄年以外の方も「家内安全」等お受けしますのお出かけ下さい。



※厄年の早見表は別紙チラシにありますので、ご確認ください。

信行会とボランティア

1、2月の「月例信行会」とボランティアはお休みです。次回は3月6日⑧「信行会」、15日⑨「ボランティア」です。

妙光寺は、亡き人を偲ぶ温かい場所

夏の妙光寺の一大イベント、「万灯のあかり」妙光寺の送り盆」は、8月22日（土）に行われました。26回目の今年、境内は五百名以上の参加者でにぎわいました。当日の運営は、約百名のボランティアに支えられています。毎月の会議には、20名余りの地元スタッフが集まります。まもなく来年の準備を始める皆さんに、お話を聴きました。

Q 皆さんが「送り盆」スタッフになった経緯を、聞かせてください。

石田 私は35年前、角田浜に婿養子に入っ
て妙光寺の檀徒になりました。その後、
安穩廟ができて、第一回のフェスティバル
の時に「手伝ってくれ」と頼まれて、それ
から毎年手伝うようになりました。

大隅 十年前に息子が亡くなって、安穩会
員になりました。お墓を買おうと家内と2
人でいろいろ見て回り、海が見えて山があ
る妙光寺が気に入って、ここに決めました。
その時「前様から「定年しているんだつた
ら、お手伝いしてもらえないか」と言われ
て、スタッフになりました。小川住職の話
に、よそのお寺とは違う改革的なものを感
じましたね。

田中 父が亡くなった時に安穩会員にな
り、母が亡くなった時お葬式をしていただ
くために檀徒になりました。七百年の団体



田中美幸さん(50歳)
塾講師。高校生を教えている。
6年前檀徒になった。

石田 一番初めは、「前様が指示をして
私たちが仕事をしていました。若かった
から、苦にはなりませんでしたが…。その
後も、県外からボランティアが来てくれま
したが、地元のスタッフは、我々檀徒が中
心でした。こんなに地元スタッフが増えた
のは、ここ10年くらいです。

大隅 私が加わった9年前もまだ地元ス
タッフは少なく、檀徒さん以外の毎月集
まる人は数人でした。今は毎月の会議に20
人は集まるもんね。以前は、「前様の話を
聞いている時間が長かったけど、今は皆ど
んどん意見を言うようになりました。

石田 私たち檀徒に安穩会員が加わって
変わりましたね。

Q 最近加わったお二人は、スタッフにな
ってみたいかがでしたか？

居橋 スタッフ会議に出てみたら、びつくり
です。普通は会議というシーンとして
いるイメージだけで、こんなに人数が多い
のに皆好きなことを言い合って、おもしろ
いなあと思いました。

参拝の時「お手伝いをお願いしたい」とい
うお手紙をいただいて、お手伝いさせてい
ただきました。その後で「今度はスタッフ
どうですか」と言われて、加わりました。
ご前様は、両親を亡くして天涯孤独の私を
気にかけてくださったと思います。

居橋 私は一昨年、妙光寺で画家の渡辺
隆次さんの展覧会が開かれたときに、主催
したギャラリー（新潟絵屋）に頼まれてお
手伝いに来たんです。ちょうど半年間イン
ドでヨガを勉強して、帰国した二日後でし
た。インドのカルチャーショックもあつて「日



大隅総介さん(71歳)
現役時代は小売業の第一線で
働いてきた。安穩会員から、最
近檀徒になった。



居橋典子さん(35歳)
ヨガインストラクター。檀信徒
ではないが、縁あって妙光寺
に通い始めて3年目になる。

Q スタッフをやっていて、
大変なことはありませんか？

田中 私は普段の生活では、主に高校生と
しか話さないんです。でも、「ここはいろいろ
な人がいる。年配の方だけでなく、働き盛
りの人もいる。背景も仕事もバラバラな人
たちがいて、もついるだけで楽しいですね。

大隅 大変さは、ありません。私も小売
業で38年間頑張ってきたけど、他の業種の
人と接することはありませんでした。ここ
は本当に様々な人がいて、同じ職業の人は
2人といない。おもしろくて楽しい。私み
たいな人間が、余生を楽しむにはもってこ
いの場所です。12月の忘年会が、翌年のこ
とを話し合う最初の会議です。その後は、
月に1回ずつ会議をしますが、私はスタッ
フになって9年間、会議は皆勤です。皆に
会えるのが楽しみですから。

田中 私の仕事は土日が忙しいので、会議
に出るためには前後に頑張ることになるん
です。送り盆当日の前後は、いつもの二倍
働きます。それでも楽しいですね。

本の神様って、どこに行っちゃったんだろ
う？」と考えていた時だったので、「前様
にそう話したら「それなんだよ！ 今日本の
仏教は大変なことになってるんだ」ってす
ごく盛り上がりつつあって、時々妙光寺に來
るようになり「是非手伝ってくれ」と言わ
れてスタッフになりました。

Q 石田さんは第一回からのスタッフ
ですが、その頃はいかがでしたか？

石田 第一回は岩屋で演奏や踊りがありま
したが、とにかく忙しかったです。椅子を



石田直也さん(59歳)
角田浜で専業農家を営む。平
成18年から世話人を務めて
いる。

Q スタッフ同士の関わりも
楽しいんですね。

石田 皆で一杯やるのも楽しいしね。普通
のお寺では、檀徒同士で酒を飲むというこ
とも、ほとんどないと思います。でも、こ
こは違います。第一こは、住職が親しみ
やすい。自分の人生で、僧侶とこんなに親
しく付き合つことがあるとは、想像してい
ませんでした。

大隅 住職や皆と世間話をして、たとえ酒
を飲まなくても楽しいですね。

居橋 私は父を亡くしているんですが、妙
光寺には「人の死」を経験した方が集まっ
ているなあ、と感じることがあります。親
しい人の死というのは、やはり経験してみ
ないとわからない部分があると思います。
とくにそういう話をするわけではないけれ
ど、皆の関わりの中では大切なことになっ
ているような気がします。

Q 「死」の体験が、皆さんの中にある
というんですね。

田中 皆の根底に、通じ合っているものが
あるんです。体験を語り合ったりはしませ
んが、何かの折に話すと皆が自然に受け止
めてくれます。

居橋 他の場所で話すとしんみりしてしま
うけれど、ここではその話題が出た時も
お互いに包みあっている感じがします。

大隅 妙光寺に来ると、「死」は当たり前

運んだり、会場整備をしたり…。もともと
私もその頃は若かったので、お寺にはさほ
ど関心はありませんでした。

Q 檀徒の石田さんでも、若い時は
お寺とは距離があったんですね。

石田 そうですよ、やっぱり。私の実家の
寺は禅宗ですが、住職といえば雲の上の人
のような感じで、親しくつき合うことはあ
りませんでした。でも婿に来てみると、義
父は若い前様を可愛がっていて、寺のこ
とに熱心でした。野菜を持って寺を訪ねる
義父といつしよに、よく妙光寺に来ていま
した。そして「送り盆」—— 当時は「安
穩フェスティバル」と言ったのですが—— が
始まって、スタッフをしているうちに寺との
つきあいが深くなりました。

Q 最初は、スタッフも今のようでは
なかったわけですね。

大隅 いわゆる「終活」がブームになっ
て、社会でますますビジネス化している
ように思います。「送り盆」では、お金で
ない価値をみつける部分を大切にしてい
きたいと思っています。

Q 今年の「送り盆」は例年以上の
にぎわいでしたが、これからの「
送り盆」は、どのように
していきたいですか？

石田 今のように手づくりで、ほのぼのし
た、温かいものを続けたいですね。
居橋 「送り盆」は、「死者」も含めても
のを考えられる場所だと思います。「死者」
もそこにいるというか…そういう思いを大
切にしたいです。

田中 そこは大事ですね。亡くなった人を
偲ぶ気持ちは、昔は祖父母から聞いたりし
ただけ、今はそういう場所がない。「送り盆」
で一番大切なのは亡くなった人への思いで、
具体的には「法要」だと思います。

大隅 今年の「送り盆」は、とくに成功
して充実感がありました。でも、これから
も少しずつ変えていかないとけない。同
じことをやっていては衰退します。ただし、
現在の温かいもの、皆のふれあいを大切に
していくところは、ずっと守っていくべきで
しょうね。

「送り盆」のこれからが楽しみです。ありがと
うございました。(聴いた人 編集部・新倉理恵子)

お会式と法号授与式

11月8日 ㊤

法号授与式



日蓮聖人の734遠忌の法要と、生前戒名を頂く法号授与式。今年は17人が生前戒名を頂きました。『ナガサキ写真展』の最終日でもあり、午後からの山崎真さんの講演にも100人近い皆さんが熱心に耳をかたむけました。



法要



お斎担当、台所の女性陣

山崎真さん

秋の一日研修 11月21日 ㊤



恒例となった『一日研修』。初めて参加するという方から、すでに9回目という熱心な方まで、13名がお経や作法を学びました。

辻幹雄11弦ギターコンサート

11月1日 ㊤



写真展2日目に開かれた平和を祈るコンサート。11弦ギターの深い音色が、本堂いっぱいの聴衆を魅了しました。

受付係20年の内藤さん退任



行事のたびに受付係を担当された内藤甚五郎さんが、この度退任されました。長年の功績をたたえ、ご前様より感謝状が手渡されました。本当に長い間ご苦労様でした。

菊花



今年も美しい菊の花がお寺に届きました。河村一良さんと内藤清さんの作品です。土間が一気に明るく華やかになりました!

七五三詣り 11月15日 ㊤



健やかな成長を願って...

故天野尚さん、妙光寺で法要

9月29日 ㊤



8月に亡くなられた世界的な写真家の天野尚さんの社葬は、小川住職が導師を務め、朱鷺メッセで行われました。その翌日、海外からの弔問客60人が妙光寺を訪れて法要が営まれました。お茶クラブのお点前は、各国の方たちに大好評でした。



寺のうごき 秋



秋のお彼岸

9月23日 ㊤



秋晴れの中、彼岸会は安穏廟での法要から始まります。午後からの住職法話では、良恵上人も初めてお話をされました。

ジョー・オダネル「ナガサキ写真展」

10月31日 ㊤～11月8日 ㊤ 来場者数1,500人

改修なった大広間で、最初の催しとなりました。人の波は絶えず、『焼き場に立つ少年』の前で手を合わせる方の姿も…。皆が平和への願いをあらたにする写真展でした。



上段の間ではドキュメンタリー番組の上映もありました。

人事報告

佐藤上人『荒行』へ

山務員の佐藤上人が、千葉県市川市にある祈禱根本道場『遠寿院大荒行堂』での修行に入りました。11月1日から来年2月10日までの寒中百日間、平均睡眠時間3時間で、1日7回の水行と読経に専念し、食事はお粥が主体の精進料理という厳しい修行です。

別紙ご案内のように、行を終えた2月20日21日に、水行の後『特別祈願法要』を妙光寺で行います。お参りください。

小川綾退職

住職夫妻の三女で、大学卒業後7年間寺務員として皆様に親しまれてきた綾さんが退職しました。「貯金したお金で世界を見てきたい」と、1年間の予定で10月30日、カナダに旅立ちました。お世話になりましたことを心から感謝申し上げます。



『浄土基金』報告

現況

11月10日現在の、寄付申出総額4千992万5,646円。入金済額4千463万5,146円。支出額2千727万7,386円。残金2千264万8,260円。第1次目標の5千万円に到達目前です。深く感謝申し上げ、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

整備事業

浄土基金による整備事業として、三重塔の土台修復工事に151万2千円支出し、9月末に工事を完了しました。



土台の腐食

住居新築と客殿改修

住職交代に合わせて、新住職主体の住居を新築します。関連工事として渡り廊下新設、旧住居部分の解体、客間の改修、中庭の拡張、防犯のための板塀の新築も来春までに予定しています。

経費は現住職の退職金積立の全額を充て、浄土基金と安穩基金の一部



工事中の様子

客殿改修第1段

大広間の天井板を張替えしました。300年ぶりと思われます。照明を天井埋め込みのLED照明に交換し、仕切りの壁を一部撤去して、全体に明るく広い印象になりました。今後は、低かった椅子とテーブルを、通常の寸法に交換する予定です。



話 法 上 誌

小川英爾

「人の命は無常なり。(中略)
老いたるも、若きも定め無き習ひなり。
さればまず臨終のことを習ふて後に他事を習ふべし。」

日蓮聖人『妙法尼御前御返事』

【大意】

人の寿命には決まりが無い。老人も若者も、いつ命が尽きるかは定めがなく、私たち凡夫にはわからないものだ。だからこそ、とにかくまず自分の臨終(最期)のことを解決した後に、他のことを考えなさい。

日々を真剣に生きるために

日蓮聖人が生きた鎌倉時代は、平均寿命が25歳くらいだったようです。幼い死も多く、成人しても戦乱もあり飢餓もあるので、人生を全うできる人は珍しかったのかもしれませんが。それだけに一日一日が一層貴重なものであったはずです。

一方男女ともに平均寿命が80歳を超えた現代社会で、私たちはどれほど日々を真剣に生きているのでしょうか。長生きにはなったけど、社会が複雑化してゆとりを失ってしまい、何のために生きているのかすらわからなくなった面もあります。だからこそ、生きることの貴さを考えることが大切になってきます。

死の準備が必要な時代

〘終活。という言葉が、すっかり定着しました。葬儀や墓、相続、住居等の後始末に関心が高まっています。バブル期に大規模化した葬儀や墓を含めた暮らしぶりが、経済の縮小と少子高齢化、核家族化で維持できなくなったことがその背景にあります。死後のことを親族に託せない現実があるのも事実で、自分の後始末を自身で準備しなくてはならなくなりました。

一方で、昨今の〘終活。も商業活動に仕掛けられたブームの様相があります。近ごろは各地の葬儀社屋や石材店、さらにはスーパーのイオンまでもが〘終活フェア。と称する催しを開き、顧客の獲得に熱心です。

この12月に東京で『エンディング見本市』なる催しがあります。葬儀関連業界の見本市と聞いたので出演を引き受けました。ところが「僧侶の日本一を決める『美坊主コンテスト』」なるものから、『ペットの終活』までであると後で知り、いま複雑な気持ちです。

ブームに流されないで

いまやこうして地域を問わず親族や人の繋がりが薄れ、業者の手を借りない訳にはいけなくなり、全てがお金の話になっています。そのとき問われるのが、自身の最期はどうありたいか、という毅然とした生き方と最期の迎え方に対する考えです。

人の生き方は、700年前の日蓮聖人の時代も、現代社会も、根本的にはさほど変わりません。寺が勧める〘終活。は、形よりもまず自分の人生観・死生観をしっかり持っていただきたいということです。

「どんなことも、いつか、つながる？」

心に沁み入る風景

10月の終わり、しーんとした夜の境内に大きな月がのぼってきました。新しくなって少し丸みをおびたように感じられる客殿の屋根が照らされ、すでに終わりに近い虫の鳴き声が調和して、とても綺麗な雰囲気でした。年齢を重ねてくると、心に染み入るような風景に出会えることが少なくなってきたと感じて「これではいかん」と思うのだけれど、時々ここにいながら夢のような光景を目にすることもあって、ちょっとした幸運を喜びます。

何かを見聞きして「良かったよ、感動したわ」というのはふだんよく使う言葉です。でも、そう言ってから本当にそうだったかな？と思うこともあります。社会人として円満に生活するためには必要なことですが、一人で自分と向き合うときには出来れば本当に深い感動を味わいたいものです。

ナガサキ写真展

夏から秋にかけて、お寺は活発に動きました。たくさんの方が集いました。「ナガサキ写真展」では、眼をそむけずに写真と向き合うことで、人間の底力を感じられた方も多かったのではないのでしょうか？会場に静謐な空気がただよっているのを感じました。私も少し怖いと思っていたけれど、一歩前に出て逃げずに物事と向き合うと、その先には感動があることを知りました。人が経験することには、それがつらいことであっても何かしら役に立つことがあると信じて。

この世の浄土をめざして

この先冬から春にかけて、客殿の改修工事と新住職のため、住居の工事に入ります。お寺の生活に慣れた私たちでも、自分のために皆さんからの寄付金を使うのは抵抗があって、今の住居部分も個人で借金をして増築しました。今度も住まいの新築には、住職の退職金にと積み立てていた保険が満期になりましたのでそれを使います。これもご加護かも知れません。

客殿は工事が終わればさらに清潔で、使い勝手が良くなる予定ですし、住居部分とは離れていますので、さらに気軽にお使いいただけます。自分たちで食事を作れば宿泊も可能ですし、研修会などにも利用できます。葬儀は、家族だけでなく親族も一緒に規模でも対応できるようになります。

この世の浄土をめざしている妙光寺が、これでまた一歩前進です。楽しいことばかりではなく、少し大変な修行体験も用意したりと、まあ、あれこれ考えて妄想しています。（笑）

ご前様は還暦を越え、体力も落ちてきました。緩やかな権限移譲を進めながら、暖かい住居で眠り、年寄りならではのステキな雰囲気をかもしだす老僧になってもらいたいものです。

若い職員が2人減り、てんてこ舞いのお寺ですが、これもいつか浄土につながる一そんな風に考えれば、また楽しみなものです。寒くなります。ご自愛ください。



質問

数珠の意味を教えてください。

日蓮聖人は数珠のことを「ずず」とお呼びになっていました。数珠は念珠とも言って、もともとは心の中で祈りながら、「南無妙法蓮華経」のお題目や「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えた数を記録する道具でした。これを操る時は心を落ち着かせることができるという、いわば集中の為に用います。キリスト教のロザリオも同じ用途に用いられ、イスラム教にも似た形状の用具があるそうです。

珠の数は宗派によって異なりますが、日蓮宗では煩惱の数と同じ108個です。持っているだけで煩惱を滅し、様々な功德を授かることに由来しています。数珠を持つて合掌したとき、両手を擦り合わせる方がいます。これは僧侶が他の僧侶に合図して何事かを知らせることに始まったものとされており、基本的にはすり合わせる必要はありません。（良恵記）



お上人

第4回

私が結婚?!

先日、母が角田の村のお婆ちゃんに「おめでとうー」と言われたそうです。何のことかと、尋ねてみれば「良恵さん、結婚決まったんだってね」とのこと。後で大笑いしながら私に話してくれました。

どこからそんな噂が立ったのか分かりませんが、全く決まっています！募集中です！「お寺のことは私がやるので、外で働いている人でも構わない」と常々話しているのですが、欲を言えば寺庭婦人ならぬ寺庭「夫」人をやってくれる人だと尚良いです。けれど、お嫁さんを探している人はいても、婿に入りたい人は、なかなかいないようです。日蓮宗は本来世襲制ではないので、別に私が結婚しなくても構わないのですが……。

住職が「誰でもいいから一緒になれ」と言い出さないうちに、決まるといいですね……。

